

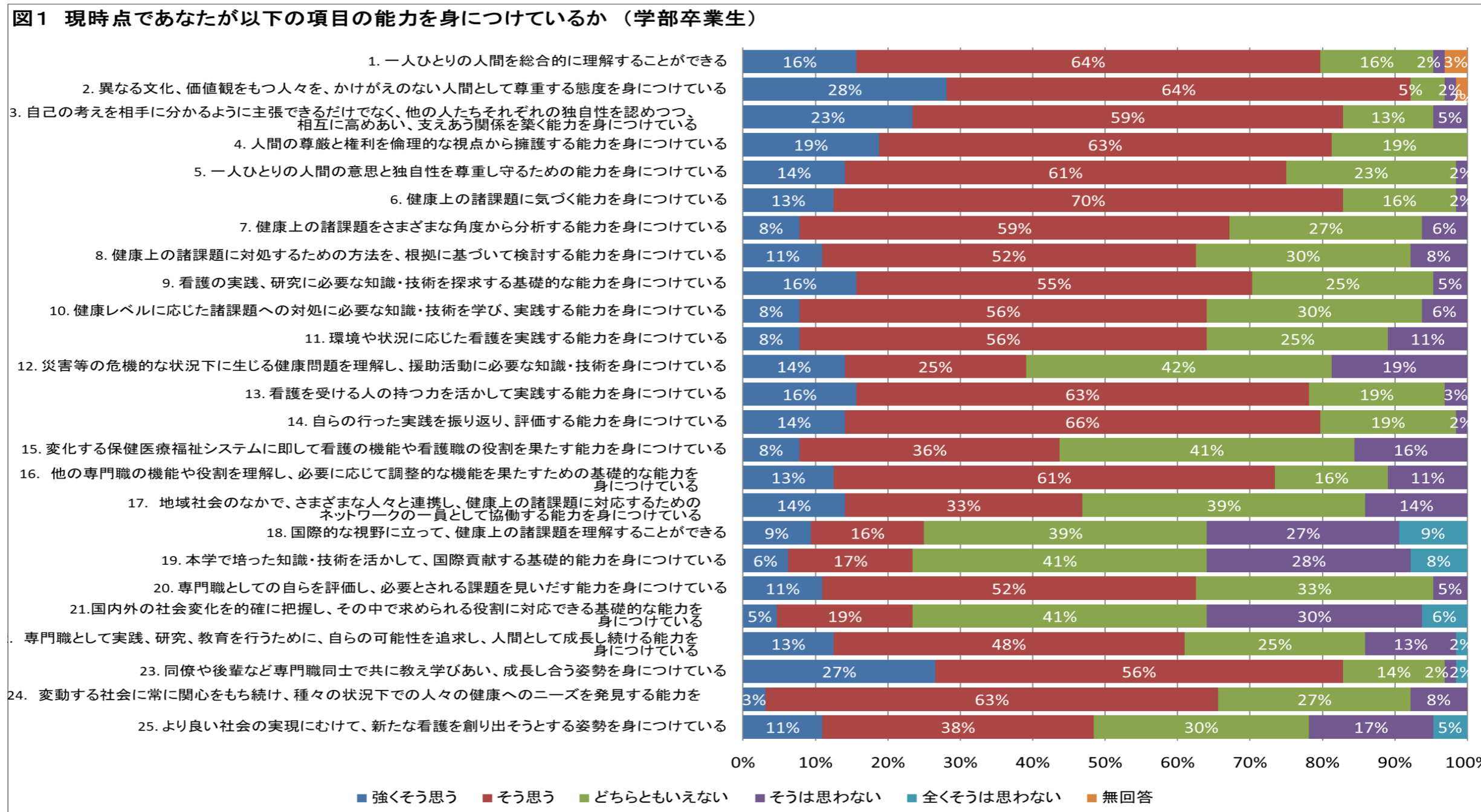
2013年度、2014年度に卒業した学部生に対して、卒業後2年目、3年目になった今、日本赤十字看護大学での学びを振り返り、どのような力が身についたのか聞いた。

【調査時期】 2017年1月

【調査対象者】 2013年度、2014年度看護学部卒業生61名（2014年度卒業生32名、2013年度卒業生29名） 回答者のうち55名が赤十字関連施設に勤務。

【回答率】 26.4%

【結果】



卒業2，3年目で身につけていると感じている割合の高い順に上位5つは、以下の通りであった（強くそう思う、そう思うを合わせた割合）。

- ・異なる文化、価値観をもつ人々を、かけがえのない人間として尊重する態度（92%）
- ・健康上の諸課題に気づく能力(83%)
- ・同僚や後輩など専門職同士で教え学びあい、成長しあう姿勢（83%）
- ・自己の考えを相手にわかるように主張できるだけでなく、他の人たちの独自性を認めつつ、相互に高めあい、支えあう関係を築く能力(82%)
- ・人間の尊厳と権利を倫理的な視点から擁護する能力(82%)

反対に、身につけているという回答が低かったのは、以下の通りであった。

- ・本学で培った知識・技術を活かして、国際貢献する基礎的能力 (23%)
- ・国内外の社会変化を的確に把握し、その中で求められる役割に対応できる基礎的な能力(24%)
- ・国際的な視野に立って、健康上の諸課題を理解する (25%)

自由記載からは、本学で学んだことが卒業後にどのように活かされているかについて、「一人一人を人間として尊重するという考え方・様々な実習で知識や体験を得た」という回答があった。国際的視野の広がりに関しては、「看護師として業務を行っているだけでは、なかなか国際てきな看護は視野に入っていないため、授業でそういった国際看護が学べてよかったと感じる。」「国際や災害看護について多く学ぶことができた」という回答があり、卒業後2、3年目の医療現場での実践に直接的に活かされている段階ではないと考えられた。

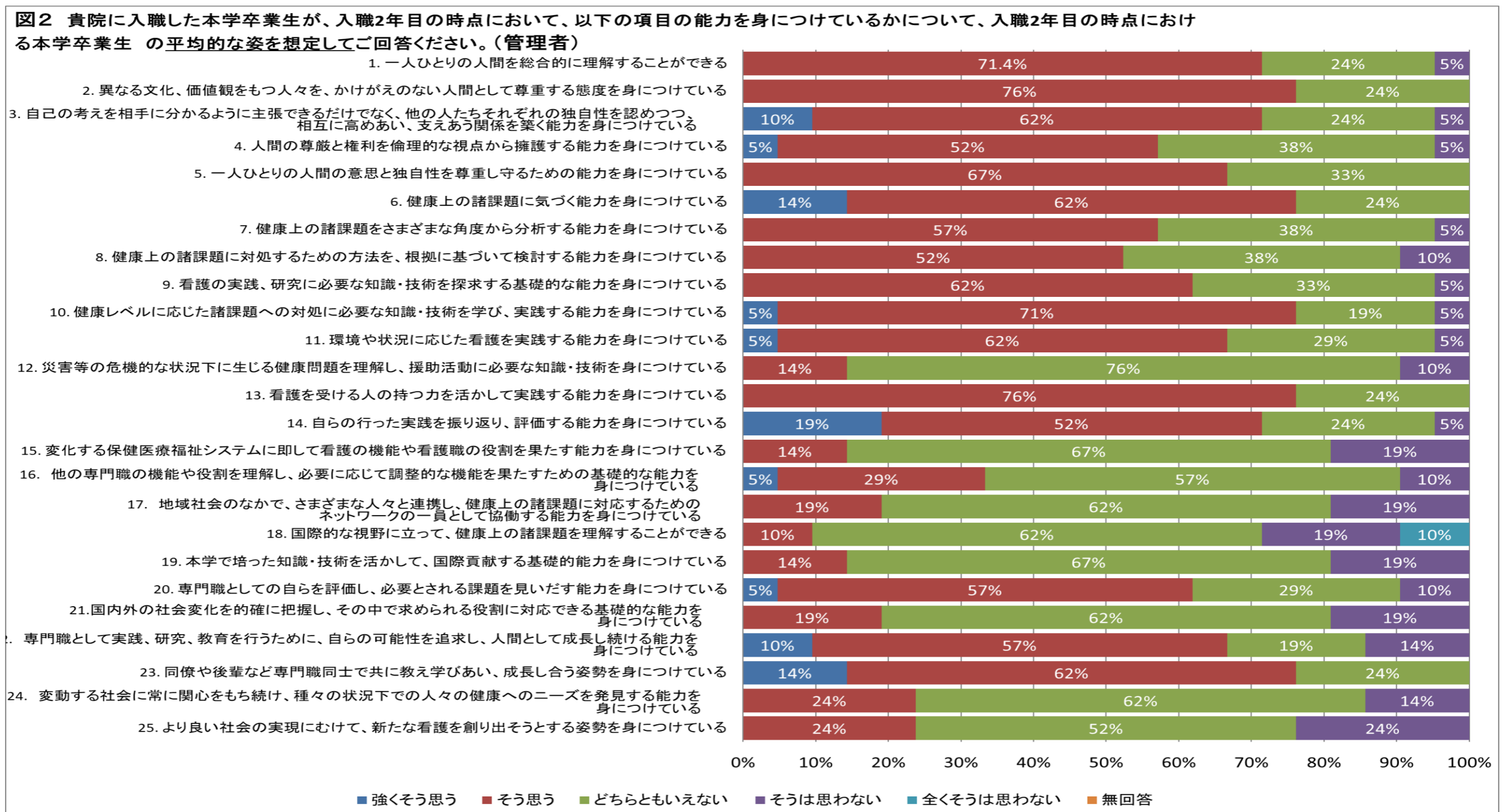
上記の2013年度、2014年度に卒業した学部生が就職した施設の看護管理者に対して、卒業後2年目、3年目の卒業生が平均的にどのような力を身につけているか質問した。

【調査時期】 2017年1月

【調査対象者】 2013年度、2014年度看護学部卒業生が2名以上就職した医療施設の管理者21名 回答者のうち17名が赤十字関連施設の看護管理者。

【回答率】 80.8%

【結果】



看護管理者が本学卒業2，3年目の看護師が身につけていると感じる力について、割合の高い順に上位5つは、以下の通りであった（強くそう思う、そう思うを合わせた割合）。

- ・異なる文化、価値観をもつ人々を、かけがえのない人間として尊重する態度（76%）
- ・健康上の諸課題に気づく能力(76%)
- ・同僚や後輩など専門職同士で教え学びあい、成長しあう姿勢（76%）
- ・健康レベルに応じた諸課題への対処に必要な知識・技術を学び、実践する能力(76%)
- ・看護を受ける人の持つ力を活かして実践する能力(76%)

反対に、身につけているという回答が低かったのは、以下の通りであった。

- ・国際的な視野に立って、健康上の諸課題を理解する（10%）
- ・本学で培った知識・技術を活かして、国際貢献する基礎的能力（14%）
- ・国内外の社会変化を的確に把握し、その中で求められる役割に対応できる基礎的な能力(19%)
- ・地域社会の中で、様々な人々と連携し、健康上の諸課題に対応するためのネットワークの一員として協働する能力(19%)

自由記載からは、「成長にはもちろん個人差はあるものの倫理的な側面を考えながら考え、行動する事が出来ており、赤十字について学んだ結果であると思う」「又文章力についても一定のレベルに到達できている」という意見があった。また「自立して実践できるには、2年目でのハードルは高いと思いました」「卒業時点から看護職としての視点を明確に持った卒業生が多いので、医療現場を広く見据えてリーダーシップが発揮できる5～7年後までサバイバルしてほしいと思います。」と今後に期待する意見もあった。